

(様式3)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究(小・中学校)」
平成23年度委託事業完了報告書
【推進校】

都道府県名	山口県	番号	35
-------	-----	----	----

推進校名	山口県下関市立長府中学校	研究主題	I型
------	--------------	------	----

○ 推進校として実施した研究内容

研究主題 「自他を大切にし、将来の夢や希望をもてる生徒の育成」
～ 学び合いのある学習活動の工夫を通じて ～

1. 重点課題への取組状況

- (1) コミュニケーション力育成のための「学び合い」による授業づくり
- (2) 校内授業改善部会のリーダーシップによる互見授業を中心とした授業改善
- (3) 学力調査等の結果や授業評価を生かした学力向上プランの見直し
- (4) 小・中連携教育協議会の設置及び学力向上へ向けた共通取組事項等の協議

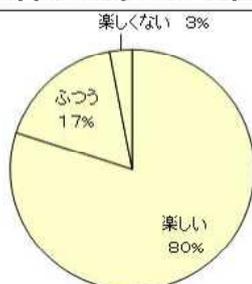
2. 調査研究の成果及び今後の課題

- (1) 本校では、各教科等の授業の中で「学び合い」の場を設定し、コミュニケーション力(「自分の考えをまとめる力」「自分の考えを表現する力」「自分と仲間との人間関係を形作る力」)の育成を図っている。

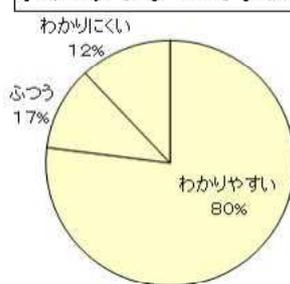
特に、今年度は、教師の支援として、「学習課題の設定」、「場の工夫」、「評価」、「学習環境」、「教具」等、様々な角度から教職員間で共通理解を図り、教科の壁を越えて、全教科で「学び合い」が実施できるように校内体制を整えてきたところである。

生徒による授業評価では、「学び合い」を好意的に捉えていることがわかり、友だちとのかかわりをとおして学ぶことのよさが実感できているようである。

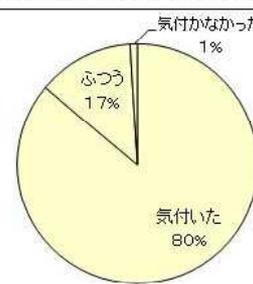
学び合いは楽しいですか？



わかりやすいですか？



友だちのよさに気づきましたか？



- (2) 校内研修では、校内授業改善部会のメンバーを中心に、互見授業（積極的な授業公開）を推進し、『学び合い』の場面における教師のかかわり方」や「教具等の効果的な活用の仕方」等、視点を明確にした授業参観により、それぞれの授業改善に役立てているところである。

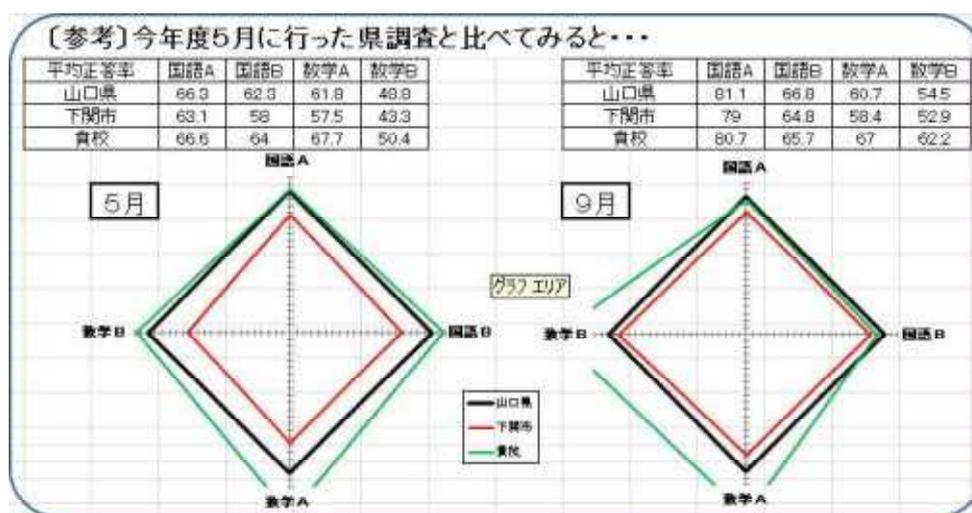
特に、今年度の互見授業では、「学び合い」の活性化を図るための「発表用ホワイトボード」や「名札カード」の活用等、どの教科でも共通に実践できる内容を多く取り上げ、校内授業改善部会のリーダーシップのもと、校内研修の活性化に取り組んできた。



- (3) 5月と9月に行った学力調査の結果から、基礎的・基本的な内容の習得と定着及び活用する力について、国語科では県平均と同等程度、数学科では、県平均を大きく上回っていることがわかった。

反面、国語科における「書く」活動、特に、「説明的な文章を読み、自分の考えを論理的に書く」ことが課題であるということが明確になった。

これは、これまで校内研修でも協議されてきた「学び合い」の質的向上といった本校の課題と重なるものであり、今後、自分の考えをもち、表現する過程での文章表現等、いわゆる「言語活動」の充実という視点で課題解決を図っていく必要がある。



※ 上記チャートは、各問題領域について、県を基準（正方形）とし、市や学校との平均正答率の差を表したもの。県より外側に線がある場合は、県平均を上回っているといえる。

- (4) 本校区（1小学校、1中学校）は、小・中連携を一層充実させるため、今年度、新たに小・中連携教育協議会を立ち上げ、学力向上、生徒指導の充実等に関する教職員による協議をスタートさせたところである。

今後、小・中連携による「コミュニケーション力の育成」等、共通の目標設定と共同実践、さらに、次年度に計画している小・中合同学習会やコミュニティ・スクール構想へ向けた様々な取組の中で連携を図っていきたいと考えている。

また、家庭学習に関する生徒・保護者アンケートで、「自主的に家庭学習を行っている」生徒の割合が55%であったことから、今後、家庭との連携を一層図り、家庭学習の充実へ向けた取組を行っていくことが必要である。